

令和7年度保健体育科授業充実事業
中学校保健体育科授業実践事例
保健分野

＜健康な生活と疾病の予防＞



令和8年3月
群馬県教育委員会
健康体育課

1 保健体育科授業充実事業の概要

授業充実事業とは

中学校保健体育科の授業充実を図るため、教師の授業実践上の課題を明らかにし、課題解決のための方策等を具体化することで、教師の指導力の向上に資する。

保健体育科の授業充実

教師の指導力向上

研究成果のまとめ・発信

授業実践や公開授業、授業研究会のまとめ資料を作成・公開

公開授業

- 委員が所属する学校を「授業充実協力校」として指定
- 研究の成果を県下に広めるため、授業を公開

授業研究会

- 公開授業をもとに、授業充実のための方策を研究協議
- 指導・講評
- 情報提供

授業充実検討委員会の開催

委員の授業実践上の課題を解決するための指導の在り方について検討

2 実践事例

期 日 : 令和7年11月25日(火)
会 場 : 富岡市立北中学校
単 元 : 保健分野 健康な生活と疾病の予防(才)感染症の予防
学 年 : 第3学年
授業者 : 菊池 壮一郎 教諭
資 料 : ①学習指導案 ②資料等 ③まとめ

令和7年度授業協力校及び授業充実推進員
富岡市立北中学校 菊池 壮一郎 教諭

令和7年度授業充実検討委員
白尾 亮一郎 指導主事(西部教育事務所)
齋藤 晴紀 指導主事(富岡市教育委員会)
小山 靖弘 指導主事(健康体育課)

[参考資料]

- ・ 中学校学習指導要領解説保健体育編【文部科学省】(平成29年7月)
- ・ 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(中学校保健体育)
【国立教育政策研究所 教育課程研究センター】(令和2年3月)
- ・ 学習評価の在り方ハンドブック(小・中学校編)
【国立教育政策研究所 教育課程研究センター】(令和元年6月)
- ・ はばたく群馬の指導プラン【群馬県教育委員会】(平成24年3月)
- ・ はばたく群馬の指導プラン実践の手引き【群馬県教育委員会】
(平成26年3月)
- ・ はばたく群馬の指導プランⅡ【群馬県教育委員会】(令和元年8月)

保健体育科学習指導案

単元名「健康な生活と疾病の予防③」〔学指要領：保健分野3学年、(1)ア(オ)(カ)、イ〕

令和7年11月25日(火) 第5校時 体育館
富岡市立北中学校 3年A組 25名 指導者 菊池 壮一郎

授業の視点

感染症予防の必要性を自らの生活と関連づけて考えることは、感染症の多くが「発生源をなくすこと」「感染経路を遮断すること」「体の抵抗力を高めること」によって予防できることを理解するのに有効であったか。

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童(生徒)の実態

	目 標	児童(生徒)の実態
知識及び技能	・感染症の予防および個人の健康を守る社会の取り組みについて、理解することができるようにする。 ・感染症は、病原体が主な要因となって発生すること、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断する、主体の抵抗力を高めることによって予防でこときることについて理解することができるようにする。	・健康を保持増進させるためには、「運動」と「食事」、「休養・睡眠」の3つバランスが大切であることなどの既習事項をおおむね理解できている。 ・健康を保持増進させる方法を理解している生徒は多いが、実生活に落とし込むことができる生徒が少ない。
思考力、判断力、表現力等	・感染症の予防および個人の健康を守る社会の取り組みに関わる事象や情報を基に課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決を目指して科学的に思考・判断して、それらを他者に伝えたり、表したりすることができるようにする。 ・健康な生活と疾病の予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりすることなどに関連付けて解決方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。	・自分の健康上の課題を見出すことができる生徒が多いが、その解決方法を考えたり、なぜその方法が効果的なのか、言葉や図などの根拠を示して説明したりできる生徒は少ない。
学びに向かう力、人間性等	・感染症の予防および個人の健康を守る社会の取り組みについて関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、自他の健康の保持増進や回復についての学習に粘り強く取り組むことができるようにする。 ・学習内容に関心をもち、教科書の資料を活用したり、身近な情報などを収集したりして課題について調べるなど、粘り強く学習に取り組むことができるようにする。	・自他の健康について関心が高く、自主的に学習に取り組むことができる。

2 単元の評価規準

知識・技能	①感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減することができることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ②病原体には、細菌やウイルスなどの微生物があるが、温度、湿度などの自然環境、住居、人口密度、交通などの社会環境、また、主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に複雑に関係する中で、病原体が身体に侵入し、感染症が発病することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ③感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であること、また、感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ④エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていること、また、それらの疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ⑤健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに、社会の取組が有効であることや地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関が持つ機能を有効に利用する必要があること、また、住民の健康診断や健康相談などを適宜取り上げ、健康増進や疾病予防についての地域の保健活動などがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ⑥心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することが重要であること、さらに、医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用法があり、正しく使用する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。
思考・判断・表現	①感染症の予防や個人の健康を守る社会の取組における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。 ②感染症の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択している。 ③感染症の予防や健康を守る社会の取組について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	①感染症の予防、個人の健康を守る社会の取組について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

3 教材観

かつて主要な死因の一つであった感染症は、医学の発展や衛生環境の改善によって、近年ではその数が減少してきている。しかしながら、近年ではエボラ出血熱、エイズ、新型インフルエンザといった新たに出現した感染症や、結核やマラリアのように再び増加傾向にある感染症が問題となっている。さらに、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって、感染症への関心や対策の重要性があらためて認識されるようになった。また、性感染症については、自覚のないまま感染を広げてしまうケースも多く、若年層への広がりが社会的な課題となっている。

本単元では、感染症が病原体によって引き起こされること、そして多くの感染症は、病原体の発生源を断ち、感染の経路を遮断し、個人の抵抗力を高めることで予防できるという基本的な知識を身に付けさせることを目指す。加えて、生徒一人ひとりが正しい情報をもとに行動し、自分自身の健康と命を守るためにも、感染症について正しく理解し、日常生活の中で健康的な習慣を意識できるようにさせたいと考える。

4 指導及び評価、ICT 活用の計画（別紙）

Ⅱ 本時の学習（2／8）

- 1 **ねらい** 感染症の予防方法について、これまでの生活経験を基に考え、分類する活動を通して、感染症の多くが「発生源をなくすこと」「感染経路を遮断すること」「体の抵抗力を高めること」によって予防できることが理解できるようにする。

2 展 開

主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時までの学習を振り返り、めあてをつかむ。 (5分) <めあて> 病原体の感染のリスクを減少させる方法は、どのように分類できるか。	○課題解決の必要性を実感できるよう、高校入試が近づいていることに触れる。 ○視覚的に整理できるよう、電子黒板に生徒の意見を投影する。
2 病原体の感染リスクを減少させる方法を、個人で分類する。 (5分) S：パーテーションを立てたり、フェイスシールドを着用したりしていたのは、同じグループに分類できそうだな。 S：予防接種はどのグループに入れたら良いだろう。 S：ワクチンを接種したけれど、これも感染リスクを減少させるための方法だと思う。	○方法を分類できるように、前時までの学習内容を見返すよう助言する。 ○試行錯誤しながら分類できるよう、授業支援アプリを使用する。
3 病原体の感染リスクを減少させる方法をグループで話し合い、分類する。 (10分) S：3密（密閉、密集、密接）を避けることは、感染経路に関わるグループで分類できそうだな。 S：普段の生活リズムも大切だと思う。これはどんなグループに分けられるかな。 S：コロナ禍に、机や椅子を次亜塩素酸水で拭いて病原体を消していたね。同じ分類には他に何が当てはまるかな。	○グループで共同編集できるよう、授業支援アプリを使用する。 ○「体の抵抗力」に着目できるよう、手洗いやうがい、マスクをしていても感染症にかかる人はどうしたら良いのか問いかける。 ○分類することに困っているグループが考えやすいように、意見がまとまっているグループの考えを紹介する。
4 全体で意見を共有し、感染症の多くが「発生源をなくすこと」、「感染経路を遮断すること」、「体の抵抗力を高めること」によって予防できることを確認する。 (15分) S：「感染経路をなくす」や「病原体をなくす」という意見がグループ内で出たよ。 S：「ワクチン接種」は、体の抵抗力を高めるグループに分類したよ。	○視覚的に理解できるよう、生徒から出された意見を整理しながらホワイトボードにまとめる。 ○視点に偏りが出ないように、具体例が不足している場合には例を示し、それがどのグループに分類されるかを生徒に問いかける。

5 学習内容をまとめる。 (3分)	
<まとめ> 感染症のリスクを減少させる方法は、「発生源をなくすこと」「感染経路を遮断すること」「体の抵抗力を高めること」の3つに分類できる。	
6 学習内容の振り返りをする。 (12分) ・グループ内で各自の振り返りを発表する。 ・全体で共有する。	○学んだ内容を実生活に活用できるよう、本時の学びを「受験に向けてどう活かすか」という視点で振り返るよう促す。
<振り返り> S：感染症予防の3つの観点を意識することで、健康な体作りを目指し、万全な状態で受験に臨みたい。 S：手洗いうがいを徹底し、感染経路を遮断していきたい。	
	◆評価項目（知③） 学習カードの記述内容及び発言から「感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、体の抵抗力を高めることによって予防できることを、言ったり書いたりしているか」を評価する。 ○さまざまな対策をとったとしても、感染症にかかってしまうことに触れ、「回復を早めるため」や「感染の拡大防止」のために、速やかに適切な治療を受けることが大切だということを、教科書を読んで全体で確認する。

3 板書計画

○ホワイトボード

既習

- 病原体
- 感染経路
 - 飛まつ
 - 空気
 - 経口
- 発病
- 自然環境
- 社会環境
- 人の条件

健康な生活と疾病の予防③

《めあて》

病原体の感染リスクを軽減させる方法は、どのように分類できるか。

発生源をなくすこと
アルコール消毒、加熱、熱湯殺菌

感染経路を遮断すること
マスクの着用、手洗いうがい、3密の回避、フェイスシールド

体の抵抗力を高めること
ワクチン接種、調和のとれた生活、適度な運動習慣

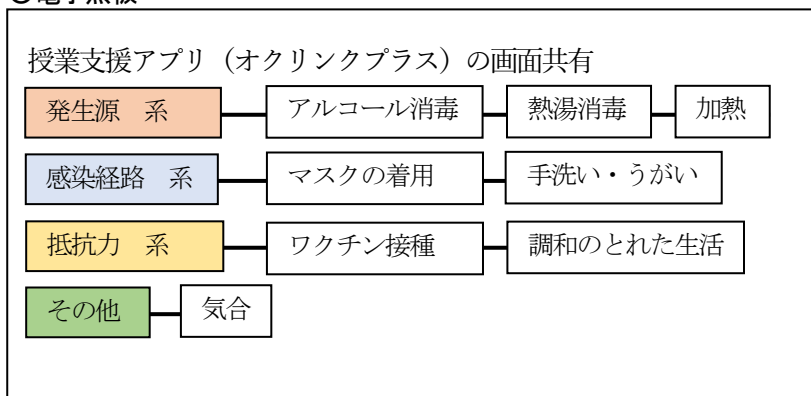
《まとめ》

感染症のリスクを減少させる方法は、「発生源をなくすこと」「感染経路を遮断すること」「体の抵抗力を高めること」の3つに分類できる。

《振り返り》

アルコール消毒をすることで感染症の発生源をなくし、健康な体づくりを意識して受験に臨みたい。

○電子黒板



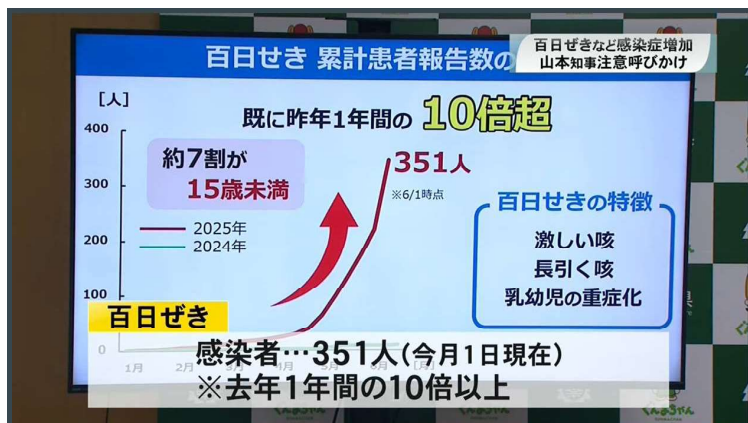
単元計画(評価規準、指導と評価の計画) 保健体育科 第3学年「健康な生活と疾病の予防③」(全8時間)			単元の課題		健康で充実した生活を送るために、感染症を予防し、自分の生活をどのように見直せば良いだろうか。			
単元の目標	知識及び技能	感染症の予防および個人の健康を守る社会の取り組みについて、理解することができるようにする。						
	思考力、判断力、表現力等	感染症の予防および個人の健康を守る社会の取り組みに関わる事象や情報を基に課題を発見し、疾病等のリスクを軽減したり、生活の質を高めたりする視点から解決を目指して科学的に思考・判断して、それらを他者に伝えたり、表したりすることができるようにする。						
	学びに向かう力、人間性等	感染症の予防および個人の健康を守る社会の取り組みについて関心をもち、主体的に学習の進め方を工夫・調整し、自他の健康の保持増進や回復についての学習に粘り強く取り組むことができるようにする。						
学習過程	つかむ	追及する						まとめる
時	1	2(本時)	3	4	5	6	7	8
本時のねらい	感染症は、病原体が主な要因となって発生し、感染や発病には人の条件だけでなく、自然環境や社会環境も関わっていることを理解できるようにする。	感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解できるようにする。	性感染症の予防には、性的接触を避ける、コンドームを使用するなど感染のリスクを軽減する方法を身につけることが必要であることを理解できるようにする。	エイズの予防には、性的接触を避ける、コンドームを使用する、感染者や他人の血液などには触れないなどHIV感染のリスクを軽減する方法を身につけることが必要であることを理解できるようにする。	医薬品を効果的に使用するためには、医師や薬剤師の指示に従い、注意書きや説明書をきちんと読んで正しく使用することが必要であることを理解できるようにする。	健康の保持増進、疾病やけがからの回復には、地域の保健センターや保健所などの保健機関や医療機関を利用することが有効であることを理解できるようにする。	健康の保持増進や疾病の予防のためには、健康的な生活行動など個人の取り組みとともに、健康診断や健康相談、予防接種など社会のさまざまな取り組みによって解決が図られていることを理解できるようにする。	生涯にわたって健康的な生活を送るためには、個人が主体的に努力し、社会全体でそれを支援することが重要であることを理解できるようにする。
学習活動内容	1.生活を振り返り、インフルエンザが広がりやすい施設やその理由について話し合う。 2.資料を基に、さまざまな感染症の病原体の種類と感染経路について調べ、説明する。 3.資料を読み取って、感染症が広がる条件について考え、説明する。 4.学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。 5.コロナ禍で、生活がどのように変わったか思いだし、学習支援アプリに意見を提出する。	1.コロナ禍の経験を振り返り、病原体の感染リスクを減少させる方法を個人で分類する。 2.グループで話し合い、3つのグループに分類する。 3.全体で感染症が「発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、体の抵抗力を高めること」によって予防できることを確認する。 4.学習したことを振り返る。	1.知っている性感染症の名称をチェックし、性感染症について話し合う。 2.資料を基に、性感染症の種類と症状、感染者数などについて調べ、整理する。 3.性感染症の予防対策について調べ、整理する。 4.表を記入しながら、ほかの感染症と比較した性感染症の特徴を整理し、説明する。 5.学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	1.エイズという言葉を見たり、聞いた場所や機会について話し合う。 2.エイズの病原体や感染経路について調べ、整理する。 3.資料を基に、エイズの特徴について調べ、整理する。 4.HIV感染の予防対策について整理し、説明する。 5.学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	1.飲み薬に関する問いに○×で答え、自身の知識の誤解や曖昧さを確認する。 2.資料を基に、医薬品の形状、使用量や飲み方などについて調べ、その理由について話し合い、整理する。 3.医薬品の正しい利用の仕方や、お薬手帳の役割について考え、整理する。 4.風邪薬の使用上の注意についてその理由を考え発表し合う。 5.学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	1.自分の生活を振り返り、けがや病気のときの対処の仕方について話し合う。 2.これまでの経験や資料を基に、医療機関の役割の違いや利用の仕方について調べ、整理する。 3.これまでの経験や資料を基に、保健機関の役割の違いや利用の仕方について調べ、整理する。 4.長期に同じかかりつけ医を利用する利点について考え、発表し合う。 5.学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	1.大人が健康診断を受ける機会や場所について話し合う。 2.生活習慣病の予防に健康診断が有効な理由について考え、整理する。 3.人々の健康を守るために社会が行っているさまざまな保健活動について調べ、説明する。 4.インフルエンザの予防のための個人、周囲の人、社会の取り組みについて考え発表し合う。 5.学習したことを整理し、ノートなどにまとめる。	1.健康を保持増進するために、自分の行っていることについて発表し合う。 2.健康づくりのための主体的な取り組みの必要性について話し合う。 3.ヘルスプロモーションの考え方について調べ、説明する。 4.選択した健康課題の解決に対する自己の取り組みを考え、発表し合う。
本時のめあて	感染症の原因となる病原体は、どのように私たちの体侵入し、ほかの人へ移っていくのだろうか。	病原体の感染のリスクを軽減させる方法は、どのように分類できるか。	性感染症を予防するには、どうすればよいのだろうか。	エイズは、どのような疾病で、また、予防するにはどのようにしたらよいのだろうか。	医薬品を効果的に使用するためには、どのようにことに気をつけなければならないだろうか。	健康を保持増進したり、疾病やけがから回復したりするために、保健機関や医療機関をどのように利用したらよいだろうか。	健康を保持増進したり、病気を予防したりするために、私たちの社会では、どのような保健活動が行われているだろうか。	私たちがこれからも健康な生活を送るためには、どのようなことが必要だろうか。
評価機会	知	①、②	③	④	④	⑥	⑥	⑤
	思			②		①		③
	態							①
単元の評価規準	知識・技能	①感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減することができることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。						
		②病原体には、細菌やウイルスなどの微生物があるが、温度、湿度などの自然環境、住居、人口密度、交通などの社会環境、また、主体の抵抗力や栄養状態などの条件が相互に複雑に関係する中で、病原体が身体に侵入し、感染症が発病することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。						
		③感染症を予防するには、消毒や殺菌等により発生源をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の抵抗力を高めることが有効であること、また、感染症にかかった場合は、疾病から回復することはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。						
		④エイズ及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていること、また、それらの疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身につける必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。						
		⑤健康の保持増進や疾病の予防には、健康的な生活行動など個人が行う取組とともに、社会の取組が有効であることや地域には保健所、保健センターなどがあり、個人の取組として各機関が持つ機能を有効に利用する必要があること、また、住民の健康診断や健康相談などを適宜取り上げ、健康増進や疾病予防についての地域の保健活動などがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。						
	⑥心身の状態が不調である場合は、できるだけ早く医療機関で受診することが重要であること、さらに、医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用する必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。							
思考・判断・表現	①感染症の予防や個人の健康を守る社会の取組における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。							
	②感染症の予防や健康を守る社会の取組について、習得した知識を自他の生活に適用したり、応用したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択している。							
	③感染症の予防や健康を守る社会の取組について、課題の解決方法とそれを選択した理由などを、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。							
態	①感染症の予防、個人の健康を守る社会の取組について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。							
		【ICTの活用】 ・意見を分類する際の試行錯誤(授業支援アプリ:オクリンクプラス) ・生徒の意見の共有(授業支援アプリ:オクリンクプラス) ・ふりかえりの提出(Googleスプレッドシート)						

健康な生活と疾病の予防③

富岡市立北中学校
保健体育科 Kikuchi

これまでの学び（キーワード）

- 病原体（細菌・ウイルス）
- 感染経路（飛まつ、空気、経口 etc.）
- 感染
(病原体が体に侵入→増殖しやすい場所にすみついた状態)
- 発病（体に発熱などの症状が出た状態）
- 自然環境、社会環境、人の条件（抵抗力など）

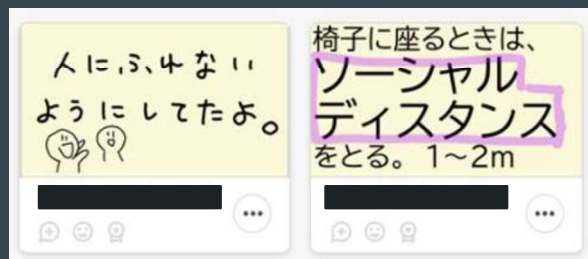
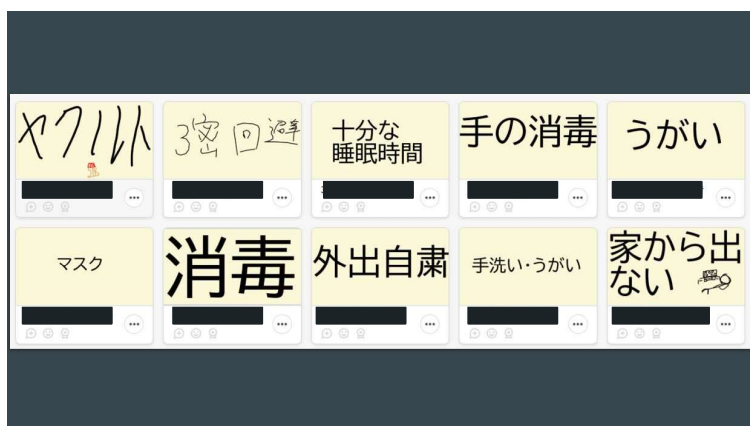


健康な生活と疾病の予防③

感染症の予防

Q.

コロナ禍を思い出し、
感染リスクを減少させるために
どんな取組をしていたか
教えてください。



Q.

コロナ禍を思い出し、
感染リスクを減少させるために
どんな取組をしていたか
教えてください。

感染リスクを減少させる方法を 分類する

(個人：5分)

これまでの学び（キーワード）

- 病原体（細菌・ウイルス）
- 感染経路（飛まつ、空気、経口 etc.）
- 感染
(病原体が体に侵入→増殖しやすい場所にすみついた状態)
- 発病（体に発熱などの症状が出た状態）
- 自然環境、社会環境、人の条件（抵抗力など）

感染リスクを減少させる方法を 分類する

(グループ：10分)

★発表者を1名決めておく

振り返り

【視点】

今日の学びを受験に向けて
どう活かす？

体調管理も実力のうち
万全の自分で、受験に挑め

守れ 体調！ 攻めろ 受験！！

1 授業づくりにあたって【授業構想】

保健領域(健康な生活と疾病の予防③)の授業を構想するにあたり、生徒が感染症の予防について、自分事として捉え、主体的に学習に取り組むことができる授業づくりを目指し、次の2項目を重点とした。

- (1) 本時の学習を自分事として捉えられるようにした導入の工夫
- (2) 自己決定、対話交流、試行錯誤の場面の設定とICT機器の活用

(1)について

保健の授業では、教科書の内容を教え込むといった生徒受け身の学習にならないよう、日頃から心がけて実践を行っている。本時の学習内容である感染症予防についても、「注意喚起」や「予防行動の確認」等の知識の伝達に留まってしまうと、本来必要である実生活での実践を伴わない学習になってしまう。そこで本時では、受験期を迎える中学3年生が、感染症対策を自分事として捉え、考え、実生活での実践につなげられるようにすることをねらいとした。具体的な工夫として、授業の導入において、群馬県におけるインフルエンザの感染状況や、その他の感染症の発生状況を具体的な資料として提示し、県の現状を把握できるようにした。中学3年生にとっては、受験は、目の前に迫った重要な出来事であり、体調管理や感染症予防は進路にも大きく関わる切実な課題である。身近なデータを基に現状を理解することで、感染症を「今、自分たちの生活の中で起きている問題」として捉え、受験期の生活と結び付けて考えられるようにした。

(2)について

エージェンシーを発揮した姿が現れるよう、自己決定、対話交流、試行錯誤の場面を設定した。

まず、感染症の予防方法について考える場面を設定し、予防方法について全員が自分の考えをもち、自分事として捉えられようにした。その手立てとして、コロナ禍の経験を想起するように促した。当時は多様な感染症対策が講じられ、生徒一人一人がそれぞれの体験や記憶をもっていると考えられるためである。生徒から出された予防方法は、ICT機器で集約し、授業内で共有、活用できるようにした。

次に、クラスで集約した全ての予防方法について、生徒一人一人が自分の考えに基づいて分類する活動を行った。その際も、予防方法を記載したカードを、ICT機器上で動かしながら分類できるようにした。また、教科書を参照すれば容易に分類の正解を確認することができるが、あえて生徒には、教科書を見ないように伝え、生徒自身で判断しながら分類し、試行錯誤しながら自分の考えがもてることを重視した。

そして、グループを編成し、それぞれの考えを共有し分類する活動を行った。この活動の際には、ICT機器を活用し、互いが行った分類の考えを共有して見える化を図り、対話交流がよりしやすい環境設定を行った。分類の視点や考え方は生徒によって異なるため、互いの考えを共有した上で、意見を出し合い対話交流をしながら多様な考え方に触れ、折り合いを付けて合意形成を図ることを目的とした。グループでの話し合いでは、意見を一度でまとめることを目的とするのではなく、話し合いを重ねながら考えを見直し、修正し、再構成していく過程そのものに価値を置いた。生徒が、他者の意見に触れることで、確信がもてなかった自分の考えを揺さぶられたり、新たな視点に気付いたりしながら、より妥当な分類について考え、試行錯誤することをねらいとした。

最後に、学んだことを実生活に活用できるように、振り返りの場面では、「受験に向けてどう活かすか」という視点で振り返りを書く時間を設定し、実践意識が高まるようにした。

2 授業研究会より（○：良かった点 ●：課題及び改善点）

（１）生徒の様子

- 教科書を見ずに生徒全員が考えていた。
- 人の話を聞くときはタブレットをいじらないなどの規律が守られている。
- 試行錯誤の場面で、よく話し合いができていた。
- 自分の分類やその根拠を示して伝え合い、学んでいた。

（２）教師の生徒への関わり

- 聞き取りやすく明確な指示が出せていた。
- 生徒の発表を最後まで聞けていた。
- グループだけでなく、個人への関わりがあった。
- 授業導入部分の会話内容は、本時につながる対話になるとよかった。

（３）発問・板書の工夫、指導の工夫

- ニュースの記事を取り上げることで、生徒が一目で分かった。
- 「受験」を通しての必要感が感じられた。
- 話し合う目的が明確だった。
- 最後、教科書にもどって、内容をしっかりおさえていた。
- 生徒の意見に対する教師からの問い返しがあった。
- ICT 機器の活用が効果的だった。
- 分類の方向性（視点）を教師側が提示してあげるとよかったのではないかな。
- 生徒が分類する情報量を減らし、シンプルにした方が良かった。

（４）授業全体、振り返り・まとめ、指導と評価

- 分類がずれていたグループもあったが、話し合いの中で修正できていた。
- 生徒から出なかった予防法について、教師が補足できていた。
- 実生活に落とし込んだ振り返りをしていた。
- 本時のねらいに迫った生徒の振り返りを全体共有できるとよい。
- もう一度まとめ直すことによって、学習の確認をした方が良かった。

3 生徒の変容

【知識及び技能】

- ・感染症の予防には、「発生源をなくすこと」「感染経路を遮断すること」「体の抵抗力を高めること」の3つの原則があることが理解できるようになった。
- ・手洗い、マスク、換気、予防接種などの具体的な対策が、上記の3原則のどれに該当するか理由を考えながら、正しく分類できるようになった。
- ・予防だけでなく、万が一発症した場合も、回復や感染拡大防止のために「早期に適切な治療を受けること」が重要であるという知識を身に付けられた。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・コロナ禍での経験やこれまでの生活体験（パーティーション、体温測定など）を振り返り、それらを3つの予防原則という枠組みを使って分析・分類する思考力が育った。
- ・受験（高校入試）を控えた自分自身の状況を踏まえ、「万全な状態で臨むために、自分には今どの対策が不足しているか」を判断し、優先すべき行動を選択できるようになった。
- ・グループワークにおいて、判断に迷う対策について、根拠を示しながら他者と意見を交換し、納得解を導き出す表現力が養われた。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・「受験に向けて健康な体をつくる」という具体的な目標と結び付けることで、手洗いや生活リズムの改善など、自らの健康保持増進に対して主体的に取り組もうとする態度が形成された。
- ・授業支援アプリ(オクリンクプラス)を活用した意見共有や分類活動を通して、友人の考えに関心をもち、互いの知識を出し合って課題を解決しようとする姿勢が見られるようになった。
- ・感染症対策が自分のためだけでなく、周囲への感染拡大を防ぐという社会的な意味ももつことに気づき、粘り強く対策を続けようとする意識が高まった。

4 授業後の生徒の感想等（生徒から提出された本時の「振り返り」より）

学校生活や塾などで人と会う機会を減らすことができないから、感染経路の遮断に力を入れたいと思った。教室では換気を常にして、もし菌が体についたとしても手洗いやうがいで体の中に入るのを防いだり、免疫力を高めるためのヤクルトを飲んだりするなど自分でできることをしたいと思った。

感染症の予防をするためには、発生源をなくす・感染経路を遮断する・体の抵抗力を高めるなどの3つに分類されるとわかった。
受験期に感染症の予防をするためには、手の消毒や手洗い・うがい、外出自粛、規則正しい生活などの取組を行い、体の免疫力を高めていきたい。

感染症は3つに分類できることを知ったので、一つずつその感染対策をすることで、バランスよく感染対策ができるのではないかと考えた。なので、これからは受験に向けて対策を考えて行っていきたいと思いました。最近では、部活がなくなって体力が落ちているため、体の抵抗力を高める対策を強くしていきたいと思いました。ワクチンは重症化しないようにするためなので安心して対策をしていきたいと思いました。

受験生として、感染症を予防するために消毒などをして発生源をなくすことはもちろん大切だけど、感染経路を断ったり体の免疫力を高めたりすることを大切にしたいと思った。まだ予防接種をしてないので、予防接種して感染経路に気をつけていきたい。

今回の学習でいろいろな対策があるとわかった。自分は受験に向けてまず抵抗力を高める対策をしたいと思った。具体的には睡眠時間をしっかりと確保することや、運動、食事を怠らないなど、すぐ行えることをまずやりたいと思った。

これからの生活や受験で、一日の生活でこまめに手を洗う、抵抗力を高めるなどの対策をしていきたい。またこれからも気温が低くなり、インフルやコロナが流行と思うから、人との関わり方をもう一度考えて生活していきたい。あと生物や菌が増殖しやすい食べ物は、避けたい。

感染症のリスクを減少させるためには、発生源をなくす、感染経路を断つ、体の抵抗力を高めることが大切だとわかった。
これから受験があるので、この3つをしっかりと押さえて感染しないようにしていきたい。
また、バランスが大切だと思った。

発生源をなくすために手の消毒をして感染経路を遮断するために、手洗い、うがい、換気、マスク、人に近寄りすぎないようにして、体の抵抗力を高めるために十分な睡眠やワクチン接種をすれば、感染症になるリスクを減らせることがわかった。常に意識することも大切だけど、特に受験の前日はしっかり気をつけたい。あと、感染しないためには絶対にかからないという気持ちも大事だと思った。

5 成果と課題

(1) 成果

授業構想(1)について

- ・高校受験という具体的な課題と関連付けたことで、生徒は健康管理を「自分事」として捉えることができた。
- ・身近なニュースや地域の実態を取り入れた導入により、学習への意欲が高まり、教科書を頼ることなく、自身の経験から感染症の予防法について考えることができた。

授業構想(2)について

- ・最初から答えを教えるのではなく、生徒自身に「3原則」への分類を考える場面を設定したことで、納得感を伴った理解や、自分の言葉での説明につながった。
- ・個人の考えを授業支援アプリ(オクリンクプラス)で即座に共有・可視化したことで、多様な視点に触れながら意見交換や合意形成をすることができた。
- ・他の班の意見をいつでも見られるようにしたことで、多様な視点に触れることができた。
- ・分類がずれていたグループがあったが、対話交流や試行錯誤することを通して生徒自身が修正できた。
- ・自分の分類やその根拠を示して対話交流をしたことで、感染症の予防に関する学びが深まった。

(2) 課題

授業構想(1)について

- ・導入時の情報量が多かったり、情報整理に時間がかかったりしたため、情報の取捨選択や提示方法の工夫が必要であった。

授業構想(2)について

- ・自分の考えをうまく整理・表出できない生徒が自己決定を行えるようにするための支援として、あらかじめ思考の手がかりとなる分類の観点や方向性を示す方法についても準備しておく必要があった。
- ・「分類すること」自体が目的化してしまい、予防にどうつなげるかを深く考えさせる視点が不足していた。
- ・生徒が試行錯誤して答えを導き出したことは良かったが、考えが固定化してしまった。意見がある程度まとまったタイミングで、「病原体や感染経路といった、以前学んだ言葉で説明できないか？」といった既習のキーワードを活用させるような「揺さぶる問いかけ」があれば、思考をさらに深められた。

6 授業の様子

(1) 前時までの学習を振り返り、群馬県内の感染症発生状況を確認する。



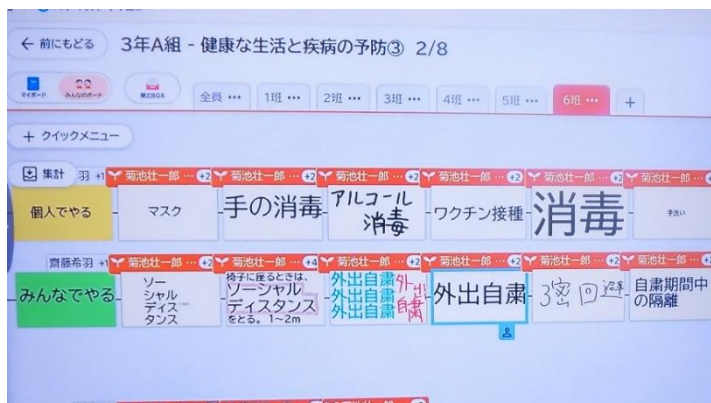
(2) 病原体の感染リスクを減少させる方法を、個人で分類する。



(3) 病原体の感染リスクを減少させる方法をグループで話し合い、分類する。



(4) 全体で意見を共有し、3観点にまとめる。



(5) 学習内容をまとめ、振り返る。

